

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成25年7月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00 (ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

進化医学って何？

高橋 博達

一般財団法人 太田綜合病院附属太田熱海病院
総合リハビリテーションセンター センター長
宮城会場 基礎課程(臨床医学各論Ⅳ) 講師

私の勝手な思い込みかも知れませんが、最近とても進化医学が注目されていると感じるのです。進化医学とは、日々進歩する最先端医学のことではありません。むしろその逆で、人の病気や症状について、人類がたどってきた進化の歴史から考えようとする分野です。進化論を提唱したダーウィンの名を冠してダーウィン医学とも呼ばれます。その代表例が糖尿病。最近のデータでは、日本の成人の実に27%が糖尿病またはその予備軍と言われ、新たな国民病となりつつあります。この現象を進化医学の立場から説明するとこうなります。

『約700万年前に人類の祖先がサルから進化して誕生したものの、その歴史の殆どは“飢餓”との闘いでした。氷河期と間氷期を繰り返す厳しい自然環境のなかで、人はいつも空腹を抱えながら、少ない食料を最も効率的に利用して生き抜いてきました。身体の設計図である遺伝子には、数百万年かかって「乏しい栄養でギリギリ生き抜く方法」が詳しく書かれました。ところがどうでしょう？現在の我々の周りには、あらゆる食べ物が溢れています。スーパーマーケットに入ると、食べ物の種類と量の多さに圧倒されます。美味しそうなものを見たらお腹がはち切れる寸前まで食べるべし、と遺伝子設計図に書いてあるため中々歯止めが利きません。“飢餓”から“飽食”への急激な環境変化です。ところが遺伝子設計図を書き換えて、「有り余る栄養をうまく処理して健康を保つ方法」を加えるには数万年かかるらしいのです。つまり我々と糖尿病との闘いは長期戦になるでしょう。』

このように、余りにも速すぎる環境変化に、人の身体の設計図が対応しきれないミスマッチを考え、その中から治療や対策を見出そうとするのが進化医学なのです。進化医学の対象は、感染症、ガン、喘息やアトピー体質などのアレルギー疾患、リウマチや膠原病などの自己免疫疾患、神経難病、うつ病など多岐にわたります。いやむしろ、全ての疾患や病態が進化医学の対象と考えるべきなのでしょう。について、進化医学の立場から見直すことで、何らかの新たな対応方法が見つかる予感がしませんか？5月から始まったNHKテレビの“病の起源”シリーズでは、これらの疾患の進化医学的な知見を明解に示してくれています。

リハビリテーション科を専門とする私は、脳卒中の後遺症の患者さんの再発予防の生活指導の際に、進化医学の考え方をそれとなく加味してお話しています。我々の身体の設計図である遺伝子は、獲物を追って広い草原を駆け回っていた時のままであること・・・を患者さんやご家族にお話すると、たいへん軽い驚きのあとにご納得して頂けます。普段の生活のなかでは忘れていても、やはり我々の深層心理のなかでは記憶を保持しているのでしょうか。自然の中で癒される我々の精神性や、登山ブームが10数年周期で湧き上がること、皇居周囲がランナーで溢れている現状などは、その遺伝子が発する“内なる声”によるものではないでしょうか？

